

第59回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日 時 令和 7 年 8 月 2 5 日 (月) 1 8 : 0 0 ~ 1 8 : 4 2

2 形 態 w e b 会議

3 出席者 6 8 名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

○今回から参加する委員の紹介があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○ 資料 1 - 1 ・ 2 に基づき、2 0 4 0 年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化について説明がなされた。国の検討会において議論が進められており、都道府県協議会の体制や協議事項について整理されている旨の報告があった。協議会では拠点病院と地域におけるがん医療を担う者、患者団体等の関係団体の参画が必須とされ、将来の医療需要から均てん化・集約化が望ましい医療の具体について整理することや、がん種ごとの役割分担、放射線療法に関する計画的な議論、診療実績の一元的発信などが求められている旨の説明がなされた。

(2) 事務局・岡山大学病院

○ 資料 2 に基づき、令和 7 年度の各拠点病院等からの研修会・講演会の予定について報告があり、全 5 3 件の活発な活動が計画されている旨の説明がなされた。当協議会や部会での活動予定も含めた一覧が提示され、非常に充実した内容となっている。また、一覧に掲載されていない研修会や講演会があれば、事務局へ連絡いただければ情報公開・共有を進めていく旨の依頼があった。

(3) 作業部会 等

① 地域連携部会

○ 資料 3 に基づき、令和 7 年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績 (R7. 4 ~ R7. 6 集計分) について報告があった。令和 7 年 4 月から 6 月までの 3 ヶ月間の算定実績は前年同期と比較して減少傾向にあることが示された。治療の進歩や複雑化により、制度に沿ったパスの運用が難しくなっている状況が説明された。

② がん相談支援部会

○ 資料 4 - 1 に基づき、5 月 2 7 日に開催された第 5 7 回実務者会議の議事要旨が報告された。今年度の研修計画として、第 1 回は頭頸部がんの光免疫療法をテーマに 7 月 3 1 日に既に実施済みであり、第 2 回・第 3 回は高齢者とがんをテーマに予定されている。また、がん征圧月間には例年通り各拠点病院が担当して県内の図書館との連携パネル展を継続実施する予定である。2 0 1 5 年頃に作成されたがん相談支援センターのポスターについては、修正箇所があるため今年度新しいものに更新し、配布先の検討が終わり次第印刷・配布する計画が示された。さらに、今年度の広報活動として 8 月 2 9 日に岡山県愛育委員会において約 1 5 分間のがん相談支援センターの P R 活動を行う予定であることが報告された。資料 4 - 2 に基づき、国の部会活動についても簡単な報告があり、近年は報告だけでなく協議を重視する方向に変わってきていることが説明された。また資料 4 - 3 に基づき、「がんと付き合う人のお喋り会」が 1 1 月 1 日 (土) 1 4 時から 1 6 時半までピュアリティまきびで開催予定であり、7 月 1 1 日に実施した夜の部では参加者 1 0 名で良い雰囲気のできる事ができたとの報告があった。

③ 緩和ケア部会

○ 資料 5 に基づき、今年度の緩和ケア研修会の開催予定について報告があり、各病院で実施される研修会への参加を促す説明がなされた。

④ がん看護部会

- 資料6-1・3に基づき、11月15日（土）に岡山医療センターで「ACPに活かせるコミュニケーションのコツ」というセミナーを企画していることが報告された。拠点病院のホームページにポスターを掲載しているが、各施設でもさらに広報協力の依頼があった。また、教育グループでは共通スライドの更新を終え、現在は各施設での活用状況について調査を進めていること、活用できている施設とできていない施設があるため、なぜ使用できないのかなどの問題点を把握するためのアンケートを実施していることが説明された。資料6-2に基づき、質評価グループでは昨年度のアンケート結果から各施設での細かい分析を行っており、それぞれの施設に応じた研修の組み立てを検討していること、さらに調査結果を論文化したものが共有され、倉敷中央病院の倫理審査委員会を通過しており、今年度のがん看護学会で発表を予定していることが報告された。

⑤ 研修教育部会

- 資料7に基づき、各施設における市民公開講座の予定と実施状況について報告があり、今後の計画の参考にしてほしい旨の説明がなされた。

⑥ がん登録部会

- 資料8に基づき、全国がん登録情報提供の確定が国立がんセンターのシステムエラーにより約1年遅れていること、2022年度の岡山県院内がん登録報告書に専門医からのコメントを掲載する取り組みを継続すること、がん登録データの活用としてポスター作成を計画していることなどが報告された。川崎医療福祉大学の医療デザイン学科の協力を得てポスター作成を進める旨の補足説明もなされた。

⑦ がん薬剤師部会

- 資料9に基づき、現在、金田病院と高梁中央病院の委員が不在となっており、可能であれば薬剤師委員の補充を検討してほしい旨の要請がなされた。来月に部会の開催を予定しており、今年度の講習会の開催計画や欠員施設の委員について協議する予定であることが説明された。また、病院薬剤師自体の不足や地域偏在の問題があるため、各施設への過度な負担を考慮しながら協議を進めていきたいとの意向が示された。

⑧ 歯科部会

- 資料10-1・2に基づき、12月14日に中国四国広域がんプロ養成コンソーシアムの歯科口腔外科セミナーを開催予定であること、倉敷の歯の健康フェアで口腔がん検診を実施したこと、11月16日に岡山市歯科医師会と共同で天満屋で口腔がん検診を初めて開催する予定であることが報告された。

⑨ がんゲノム医療部会

- 資料11に基づき、市民公開講座の開催報告や人材育成のための研修会の実施状況、今後の予定について説明がなされた。また全国遺伝子医療部会の連絡会議の案内もなされた。

⑩ がん・生殖医療部会

- 資料12に基づき、報告がなされた。小児がんやAYA世代のがん患者が将来子どもを持つ可能性を支えるため、これまで3年間をかけて取り組みを進めてきた。昨年度までには、患者が妊孕性温存に関心を示した際の県全体の対応フローを整備し、希望がない場合でも心のケアや養子縁組といった選択肢につなげる仕組みを構築した。また、パンフレットや医療者向け手引きなどの啓発資材も作成された。今年6月には本年度最初の部会が開かれ、各医療施設における妊孕性温存の取り組み状況が共有された。その中では、診療科による対応のばらつきや、対応が進んでいない現状が課題として挙げられた。これを受け、今年度は診療科単位での実態調査を実施する予定であり、現在アンケートの準備が進められている。さらに、岡山県の事業として、県内7施設での講演・研修会が今年度も実施される。昨年度からは医師だけでなく看護師向けの教育コンテンツも導入されており、今年度は薬剤師向けの内容も加える方向で検討が進められている。また、例年実施している「小児AYAがんフォーラム」も2月頃に開催予定で、学校の先生など教育関係者やがんサバイバーなど幅広い層を対象に妊孕性温存の啓発を行う。今年度の計画はすでに策定済みで、今後の中長期的な展開も見据えた活動が進められている旨の報告がなされた。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院
報告事項なし

(5) その他
特になし

6 協議事項
特になし

7 その他
特になし

8 次回開催日
令和7年12月1日 18:00～(Web会議)